

河内

つらい時支え合って 多発性硬化症／視神経脊髄炎

「友の会大阪会」設立 来月7日浪速区で講演・交流会

多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)などの中枢神経に炎症が起きる難病。患者が日々つらい思いをしながら生活している。患者同士が支え合おうと、友の会大阪会が設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。

友の会大阪会代表の鈴木繁さん(57)は、MSとNMOの両方を患っている。2008年にMSと診断された。最初は視力が低下し、その後、手足のしびれや、歩行時のバランスの崩れなど、症状が徐々に悪化していった。現在は、歩行時のバランスの崩れや、手足のしびれなど、症状がさらに悪化している。

友の会大阪会は、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

友の会大阪会代表の鈴木繁さんは、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

難病の悩み共有し前へ

12日天王寺 医療勉強・交流会

多発性硬化症など

「友の会大阪会」代表の鈴木繁さんが、12日、天王寺で医療勉強・交流会を開催した。交流会では、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

友の会大阪会代表の鈴木繁さんは、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

難病映画に込められた願い

平成29年 10/1 読売新聞 「日曜便」 阿部つとむ

多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)などの中枢神経に炎症が起きる難病。患者が日々つらい思いをしながら生活している。患者同士が支え合おうと、友の会大阪会が設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。

友の会大阪会代表の鈴木繁さん(57)は、MSとNMOの両方を患っている。2008年にMSと診断された。最初は視力が低下し、その後、手足のしびれや、歩行時のバランスの崩れなど、症状が徐々に悪化していった。現在は、歩行時のバランスの崩れや、手足のしびれなど、症状がさらに悪化している。

友の会大阪会は、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

難病患者QOL向上目指し講演

来月26日 中之島

脳や脊髄などの中枢神経に起きる難病「多発性硬化症(MS)」や「視神経脊髄炎(NMO)」などの患者を対象にした医療イベントが5月26日、大阪市北区中之島のグラシエール大阪で開かれる。患者団体「大阪MS／NMOコムラード(大阪コムラード)」(鈴木繁代表)の主催。イベントは午後1時から4部構成。患者の生活の質(QOL)向上を目指し、疲れや腸内環境を整える食事、患者とその家族の心の持ち方などに焦点を当て、各分野の専門家が解説する。

講演する専門家とテーマは、第一部「大阪

市立大講師・武田景敏さん「疲れ・集中力 注意力の減退▽物忘れ、その解説▽第二部」

大阪市立大病院管理栄養士・藤本浩毅さん「腸内環境を整える栄養 あれこれ▽健康栄養支援センター」

講師 中嶋昌香さん「今日からできる美腸食とは?▽精神・保健福祉総合研究所長 田村雅幸さん(本人)と家族の心の持ち方へのアプローチ。参加費は会員無料 非会員5000円。定員先着120人。問い合わせ先は大阪コムラード事務局(090-3657-1111)。(富田直夫)

平成26年 8月5日 大阪毎日 (第3号読者増刊号)

難病克服へ情報交換

多発性硬化症

患者ら交流会

視神経脊髄炎

脳や脊髄などの中枢神経に炎症が起きる難病「多発性硬化症」と「視神経脊髄炎」の患者と家族が日ごろの悩みや情報交換をする交流会「多発性硬化症／視神経脊髄炎」が5月26日(金)午後1時から、大阪市天王寺区の市立大講堂で開かれた。患者や家族による自助グループ「多発性硬化症友の会関西支部大阪会(鈴木繁代表)」の主催。

同会は鈴木繁さんから患者4人が今春設立された。2つの病気を、細菌やウイルスなどから体を守る免疫細胞や抗体が何

内の細胞を攻撃し、破壊することで起き、手足のまひや視力低下、物忘れ、排尿障害などの症状が特徴。再発を繰り返しながら、悪化し、仕事を辞めざるを得ない患者も多い。今年6月初めて医療講演。患者・家族会を市内で開いたところ、50人の患者に対して、約70人が応募。会終了後、「患者同士の交流の場が欲しい」といった参加したいという希望が多く寄せられ、8月の交流会開催決定。

鈴木繁代表は、交流会を通じて、社会保険制度などの情報を知らずに取り残されて、苦しんでいる患者を一人でも減らしたいと話している。

交流会は参加費無料。事前申し込みが必要(定員35人)。問い合わせは鈴木代表(電話06-6706-0404、メールszn@post.nifty.com)に。会場は市立大講堂(大阪市天王寺区)の市立大講堂。入野医師も加わり、患者の疑問に答える。

交流会は参加費無料。事前申し込みが必要(定員35人)。問い合わせは鈴木代表(電話06-6706-0404、メールszn@post.nifty.com)に。会場は市立大講堂(大阪市天王寺区)の市立大講堂。入野医師も加わり、患者の疑問に答える。

平成28年 10/3

難病克服へ情報交換

多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)などの中枢神経に炎症が起きる難病。患者が日々つらい思いをしながら生活している。患者同士が支え合おうと、友の会大阪会が設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。

友の会大阪会代表の鈴木繁さん(57)は、MSとNMOの両方を患っている。2008年にMSと診断された。最初は視力が低下し、その後、手足のしびれや、歩行時のバランスの崩れなど、症状が徐々に悪化していった。現在は、歩行時のバランスの崩れや、手足のしびれなど、症状がさらに悪化している。

友の会大阪会は、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。

平成28年 10/3

難病克服へ情報交換

多発性硬化症(MS)や視神経脊髄炎(NMO)などの中枢神経に炎症が起きる難病。患者が日々つらい思いをしながら生活している。患者同士が支え合おうと、友の会大阪会が設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。

友の会大阪会代表の鈴木繁さん(57)は、MSとNMOの両方を患っている。2008年にMSと診断された。最初は視力が低下し、その後、手足のしびれや、歩行時のバランスの崩れなど、症状が徐々に悪化していった。現在は、歩行時のバランスの崩れや、手足のしびれなど、症状がさらに悪化している。

友の会大阪会は、MSやNMOの患者の悩みを共有し、支え合おうと設立された。来月7日、浪速区で講演・交流会を開催する。講演者は、MSやNMOの専門家である。交流会では、患者同士が支え合おうと、悩みを共有し、支え合おうとする。